

豊高SGH フェアトレード班 通信

2015年
6月8日
第5号

フェアトレードとは途上国の生産者を
対等なパートナーとし適正な価格で繼
続的に取引してフェア（公正）なトレ
ード（貿易）をめざす取り組み。

フェアトレード

講演会

六月六日（土）はSGS（スーパーグローバルセミナー）として、NGO代表の小吹さんの講演を聞きました。課題研究メンバーは七名、トールコースのメンバーも七名計一四名が参加しました。



小吹さんはフェアトレードやマイクロファイナンスの二〇年以上関わってこられ、民間レベルの国際援助を研究実践してこられました。

一 限目 「つながる世界の諸問題」として「日本の食糧自給率」や「世界の栄養不良の人の数」など九つの項目から日本と世界の現状を学びました。そしてその九項目をダイヤモンドランキングの形式で順位づけして班ごとに発表しました。各班とも命との関わりや

国際的影響などの観点から順位づけをしていました。二 限目まずフェアトレードが現れた経過を学習しました。ODAなどの援助は持続可能性がなく、それらにかわってビジネスの手法による国際支援が始まったと言うことです。次にチョコレート原料のカカオ豆の生産者の取り分が一〇〇円のチョコの値段のうち八円にすぎない、コーヒーは四五〇円のうちの三円だけという例が紹介され、フェアトレードの役割が、生産者を保護すること、最低価格の保障であると説明がありました。フェアトレード商品も紹介されました。サッカーボールも児童労働によるものでないものがフェアトレードで販売されています。日本ではフェアトレードの認知や商品の普及はまだままだであるとのことでした。熊本市や名古屋市がフェアトレードタウンとしてその普及をはかっているそうです。

そのあとバングラデイシユのストールやポシエットなどのフェアトレード商品を実際に手に取り「いくらで売りたい」「いくらで買いたい」という値段づけのワークショップを行いました。最後に現地の人がその商品を作っている様子を写真で見て、生産から販売までの実際を学びました。



三 時間半にわたって、フェアトレードの内容を自立のための国際援助という観点からしっかりと学ぶことができたと思います。

講演の感想など

☆日本の国民一人あたりのフェアトレード認証製品年間購入額がスイスやアイルランドの何十分の一だったことが悲しかった。もつと国民にアピールしていかなければ行けないなと思ったし、自分も日本でフェアトレード認証製品が販売されていることを知らなかったのが恥ずかしい。イギリスのようにフェアトレードを押し出していきたい。



☆フェアトレードのことも今回で初めて詳しく知って実際にその商品も多く売られていると知ってこんなに身近私でも国際協力できる機会があると言うことがわかってよかったです。日本や世界の状況をすべてよかったです。（九組K）

☆今までフェアトレードという言葉は聞いたことがあつたけど浅い内容しか知らなかったのです、そのしくみや背景を知れてよかったです。フェアトレードだけでなく、世界事情も聞いていつもテレビで見る世界が現実的なものになりました。（三組U）

